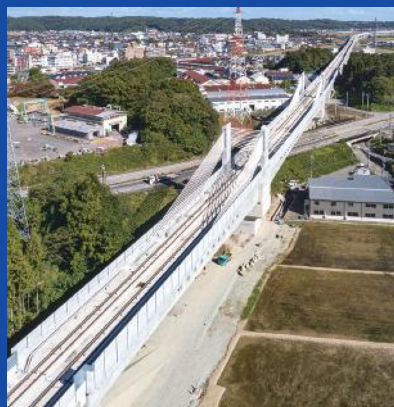


Index

- #001 金沢～敦賀開業 北陸新幹線 *p.01*
行こっさ！ 工芸と恐竜、鉄道の国
- #002 [よくわかる！PC 基礎講座⑪]
プレキャスト工法の活用(その3) *p.09*
- #003 PC のニューフェイスたち *p.10*
- #004 PC ニュース *p.46*

謹んで豪雨災害の お見舞いを申し上げます

令和6年7月からの大雨による災害で
お亡くなりになられた方のご冥福を
お祈り申し上げますとともに、
被災された皆さまへ心よりお見舞い申し上げます。



表紙のイラスト／加賀細坪橋りょう
金沢～敦賀開業「北陸新幹線」行こっさ！
工芸と恐竜、鉄道の国」で訪ねた加賀細
坪橋りょうをイラストに描いたものです。

広報誌の名称について



は

コンクリート(C)にプレストレス(P)の力が
作用した様子を表現したもので、
「プレス」は定期刊行物を意味しております。

東京駅から約2時間半。2015年
の開通以来、北陸新幹線の発着駅だっ
た金沢駅を出発した新幹線は、ぐんぐ
ん速度を上げ賑わう市街地を駆け抜け
る。後ろへ流れていく多くの家の屋根が
思ったよりも近くに見えて、ここで暮ら
す人々の息遣いが聞こえてきそう。元日
に発生した能登半島地震を乗り越え2
024年3月16日に開業した、北陸新
幹線延伸区間への旅が始まった。

▲ 九頭竜川橋りょう(鉄道)／新九頭竜橋(道路)
全長415mのPC7径間連続箱桁橋。橋の全景や新幹線が通過する様
子は、森田配水搭マイアクアの無料展望台から見るができる。

(写真提供：鉄道・運輸機構)

金沢―敦賀間の開業日が決まっ
から、ずつと楽しみにしてきた今回の旅
元日に発生した地震のことは心配だけ
ど…。越前海岸沿いをドライブしよ
うか、お城や史跡めぐりも充実しそ
う。スマホで調べるほどに加賀や越前が持つ
魅力に惹きつけられるけれど、京の都
との交流が育み、加賀百万石の豊か
さに守られてきた美しい工芸品たち
のルーツに触れていくなんてどう
かしら。輪島塗が地震で大きな被害にあ
っているようだし、今回の旅で少し
でも応援になることができれば良
いんだけど…。

まずは敦賀まで新幹線に乗っ
て、レンタカーで新幹線沿いに金
沢まで北上しよう。行きに駆け
抜けた橋は下から見ると、福井と
言えは恐竜も外せないし、他にも
面白そうなのを見つけたら、気
の向くままに寄り道しよう。

敦賀から金沢までの橋で、気
になるのは福井市北部の九頭竜
川に架けられた九頭竜川橋りょう
だ。新幹線と道路が橋脚を共有
する初めての「新幹線・道路一
体橋」だ。タイミングが合えば、
新幹線と並走できるから車でも
走ってみよう。

越前だけふ駅を過ぎると長い
トンネルに入った。新北陸トン
ネルだ。かつての北陸道を歩く
人の脚では迂回するしかなかった
急峻な山々の中を、今ではま
つすぐに北陸新幹線は貫いてい
く。金沢を出て一時間も経たず
に敦賀駅に到着した。

金沢～敦賀開業

北陸新幹線

行こっさ！ 工芸と恐竜、鉄道の国

シンボルロードを通り 氣比神宮で安全祈願

「空にうかぶく自然に囲まれ、海を望む駅」をコンセプトにした発着駅、敦賀駅に降り立った。

改札を出ると、スタイリッシュな駅前広場が広がる。知育・啓発施設「ちえなみき」や土産物店が入る「otta」などが開業に合わせてオープンし、地元の人と観光客が行き交う場所になった。駅前の「シンボ



▲ 氣比神宮

大宝2(702)年創建と伝わる。重要文化財の大鳥居は正保2(1645)年建立、日本三大木造鳥居のひとつ。扁額は敦賀―ウラジオストク航路を運航した大家七平の奉納で、御染筆は有栖川宮威仁親王による。

ルロード」には何やらブロンズ像が並んでいる。近づいて見れば…えっ、メーテルと鉄郎？



▲ 宇宙戦艦ヤマト・銀河鉄道999のモニュメント
敦賀駅前から氣比神宮まで続く商店街添いにある、ブロンズ像計28体。それぞれストーリーに添って印象的なシーンが再現されている。

駅で手にした観光マップによると『港の町』『鉄道の町』を表現し、敦賀市のシンボルとして、「宇宙戦艦ヤマト」と「銀河鉄道999」のモニュメントが迎えてくれているらしい。けれど敦賀が「鉄道の町」というのがピンとこない。最近新幹線の駅ができたばかりなのに？ 敦賀と作品の縁はどこにあるの？ 疑問符で頭がいつぱいのまま、とにかくレンタカーを借りて北陸道の総鎮守、氣比神宮へ。古の旅人たちと同じように道中の安全を願った。

世界の命を救った国際港 「鉄道と港の町」敦賀

港へ車を走らせていると、「敦賀港驛」と掲げられたレトロな建物が目

に入る。旧駅舎の建物を再現した鉄道資料館らしい。ここなら「鉄道の町」の理由が分かるはず！

明治2(1869)年にできた日本初の鉄道計画では、東京―京都間を幹線として、東京―横浜、京都―神戸、そして琵琶湖畔―敦賀を結ぶ3つの支線の建設が決められたらしい。そんなに最初から敦賀に鉄道を通すつもりだったなんて！ 北陸新幹線が到着したのは、日本の鉄道はじまりの地のひとつでもあったらしい。江戸時代には北前船の寄港地として発展してきた敦賀港だもの、首都と繋ぎたいに決まっている。その後シベリア鉄道が開通すると、敦賀―ウラジオストクに定期船が



▲ 敦賀鉄道資料館

旧国鉄駅舎を再現した建物で、敦賀に関する鉄道の歴史や資料、鉄道模型を展示。

▼ 人道の港 敦賀ムゼウム

大正～昭和初期の敦賀港にあった、税関旅員検査所など4棟の建物を復元。敦賀港の歴史、ポーランド孤児やユダヤ難民とのその後の交流についても紹介している。ムゼウムとはポーランド語で「資料館」という意味。



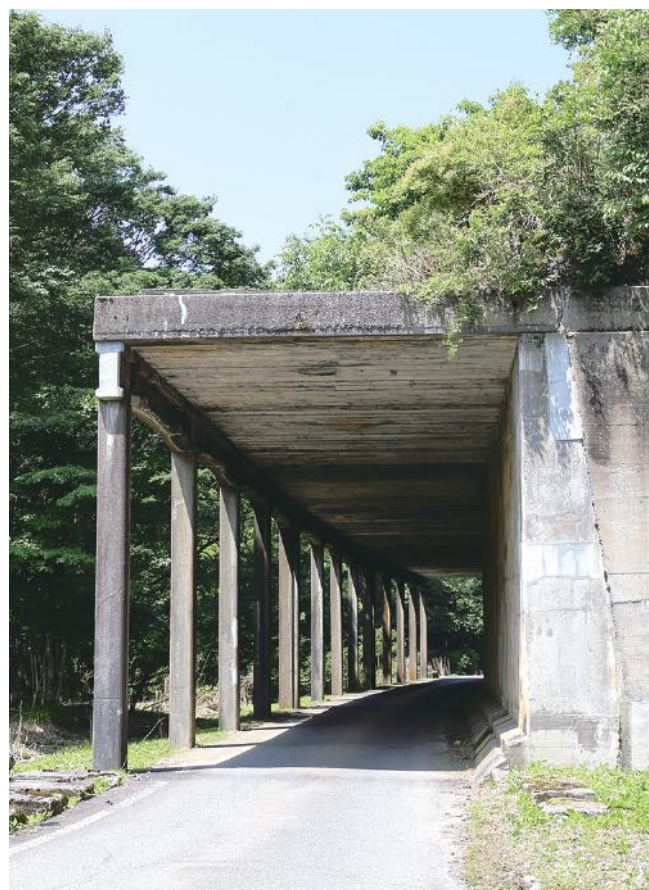
就航し、ヨーロッパまでの最短経路ができた。チケット1枚で東京・新橋からパリまで行ける「欧亜国際連絡列車」の開業で、敦賀はゆるぎない「港と鉄道の町」になった。うん、ヤマトと銀河鉄道のモニュメントが建つのもなんだか納得だ。

謎が解けスッキリしたところで、港の対岸に見える洋館風の資料館「人道の港 敦賀ムゼウム」へも立ち寄る。敦賀が国際港として賑わっていた明治～昭和初期は、世界各地で戦争が繰り返されていた時代だ。

そんな中、戦禍から逃れる人を敦賀港は受け入れてきた。ロシア革命後、シベリアで孤児となり取り残されていたポーランドの子どもたちや、第二次世界大戦中に杉原千畝が発行した「命のビザ」を握りしめたユダヤ難民たちが上陸した唯一の港ということには驚いた。絶望を抱えて海を渡ってきた人々を住民も温かく迎え入れ、そして安住の地に向け列車で出発していくのを見送ったそう。多くの人が戦争に傷つき逃げる今の世界と重なり、当時の敦賀の人々の懐の深さを私も持ちたいと思うのだった。

日本初のPC造落石覆工 旧北陸線山中ロックシェッド

日本の鉄道計画はその後新たに立案され、明治29(1896)年には敦賀から延伸した北陸線が福井まで開通。現在は鉄道の遺産として残る敦賀―今庄間は特に険しい難所だったらしい。ぜひ見たいPC構造物もそこにある。今は車道となっている旧線路跡を進み、一車線分の幅しかない細い石積みみのトンネルをいくつも抜けた先に(対向車よ絶対来ないで!)と全力で祈った)、お目当ての「旧北陸線山中ロックシェッド」はあった。落石を防ぐ覆工を見上げれば、屋根を葺くようにPC桁が何本も渡



▲ 旧北陸線山中ロックシェッド
昭和28(1953)年完成の日本初のPC造落石覆工(柱・梁・天版はPC)。旧北陸線の線路を、急な山肌からの落石・土砂崩れから守るために造られた。登録有形文化財。

宿場町から「鉄道のまち」へ 今庄でグルメの時間

越前最大の宿場町、今庄宿。今も江戸時代当時の道幅も建物も変わらず残るものがあるというから、タイムトラベラー気分で歩いてみる。最盛期には55軒あったという旅籠の一軒が、建屋を引き継ぎそば店を営んでいた。平格子の間にかかるのれんをくぐると、

天井高のある土間が広がる。畳に上がりコシの強いそばをすすり、古の旅人の姿を追想した。明治になり鉄道が敷かれると、今庄駅は急峻な山を越えるために機関車を連結し、燃料を補給するすべての列車が停車する交通の要所となった。その際の駅の立ち食いになり、全国に知られるようになったのが今食した「今庄そば」だそう。

インスタを見れば、「甘味処でまり」も多くの人がおすすしめしていたので立ち寄ることにする。このもちもち、ぷにぷにの白玉団子の食感といたら!どうしてこんなに柔らかいんですか?!と勢いよく尋ねれば、たつぷり豆腐が入っているからだそう。甘き控えめでヘルシーな、人生最高のお団子に出会ってしまった。寄り道、大正解。



◀ 手打ち十割 六助

約200年前から現存する旧旅籠「若狭屋」の建物で、福井のそば粉で打った十割そばが食べられる。メニューはおろしそばのみ。



甘味処でまり ▶

古民家をリノベーションした白玉団子専門店。定番の「黒みつきなこ」はもちろんだらそう。甘き控えめでヘルシーな、人生最高のお団子に出会ってしまった。寄り道、大正解。



▲ 今庄宿

幕末には旅籠55軒、茶屋15軒が軒を連ねたという北国街道の宿場町。全長1kmの町並みには今も江戸〜昭和の建物や酒蔵が残る。

「一五〇〇年前からの最高級品」 越前和紙に触れる

今庄宿から越前たけふ駅方面を指して山を下り、越前市に入ると「越前和紙の里」へ車を走らせる。越前和紙は書き心地の良さと耐久性から古くは公文書に使われ、近年アートシーンや高機能部材としても注目される越前が誇る伝統工芸品だ。大河ドラマ



▲ 越前和紙の里

越前和紙の資料館や体験施設が集まる。「パピルス館」では気軽な紙漉き体験ができ、江戸時代の紙漉き家屋を移築した「卯立の工芸館」では、昔ながらの紙漉きの全工程を見学・体験(要予約)できる。

『光る君へ』では、紫式部が美しいグラデーションの入った越前和紙にさらさらと和歌をしたためていて、私もあの雅な紙を手にとってみたくなったのだ。ショップと工房を見たい…と思っていたけれど、紙漉き体験もさせてもらうことにした。紙の材料が入ったとろりとした水の中で、簀桁を縦横に何度か揺らして繊維を絡める。押し花や染料を配置し、乾けば色紙のできあがり。紙匠の手から生み出される、薄く滑らかな最高級品とは別物だけど、旅の思い出を一首したためて枕元にでも飾ろうか。いい夢が見られそうだ。

和紙の里から国道417号を北上すると、北陸新幹線が川を斜めに横断する浅水川橋りょうを通り過ぎる。めがねの街・鯖江郊外なのどかな風景が眺められた場所だ。最近見た映画『おしよりん』の舞台にもなった鯖江で、本当はめがねミュージアムに行つて手作りめがね制作体験なんかもしてみたい…と思っていたのだけれど、実はとあるバスの予約時間が迫っている。急ぎ福井駅のバス乗り場に向け高速道路をひた走った。

地球のロマンが詰まった 世界に誇る恐竜博物館

さあ、ここからはいつときバスで寄り道だ。次世代型観光バス「WOW

RIDE いੱつき! 福井号」は、九頭竜川の上流にある福井県立恐竜博物館までの約1時間、車窓や頭上に映し出されるAR・VR映像を楽しみながら移動できる新感覚XRバスだ。ネタバレは控えるけれど、福井のおすすめスポットやグルメを知り、恐竜たちに親しみが湧くクスつと笑えるストーリーが展開されるうち、あつという間に福井の代名詞的存在の大博物館に到着する。そうそう、参加型の場面は恥ずかしがらず手を挙げてほしい。没入するほうがずっと楽しいから。

福井は多くの化石が発掘されている恐竜王国だ。日本で見つかった恐竜の半数が福井で発掘されており、「フクイ」の名を冠する恐竜もいる。ドーム型の常設展示室には、本物の化石を使った10体を含む、50体の全身骨格が展示されている。入ればやつぱりティラノサウルスに引き寄せられてしまう映画『REX 恐竜物語』を見た幼いころ、しばらく化石の発掘キットに夢中になっていたなあ、と思い出す。童心に返つて恐竜たちの間を歩き回る。

古生代〜新生代の骨格展示ゾーンでオオツノジカやマンモスの骨格の前では「もののけ姫だ!」という同年代女性の声が聞こえてきて思わず頷く。そうですね、私もシン神様と乙事主様だつて思いました。他にも地球が生み出す美しい鉱物、発掘現場

▼ 浅水川橋りょう
PC3径間連続箱桁橋。前後に11連のラーメン高架橋、31連のT桁橋が続いている。





▲ 勝山恐竜橋

勝山ICと恐竜博物館を繋ぐ県道260号のPC5径間連続箱桁橋。たもとにフクイラプトルの模型があり、親柱は恐竜のタマゴをかたどられている。



▲ フクイラプトルの像

勝山恐竜橋を眺められる「道の駅 恐竜渓谷かつやま」に立つモニュメント。



▲ 福井県立恐竜博物館

世界三大恐竜博物館のひとつ。館内では実際の化石クリーニング作業や収蔵庫なども見ることができる。恐竜発掘現場の見学や発掘体験ができるツアーなどもある。

新九頭竜橋を渡り
PC橋の長老 十郷橋へ

福井駅から新幹線に沿って北上し、
新幹線・道路一体橋の道路部分、新

の再現展示と、時間がいくらあっても足りない充実度だ。
帰りは化石のレプリカや恐竜像が、ごく普通の田園風景に顔を出す外の景色を眺めながら、勝山恐竜橋を渡る。なんだか橋桁のカーブも、長い首を地面に下げたブラキオサウルスに見えてかわいく思える。まだまだ心は白亜紀やジュラ紀に残したまま、福井市内へと戻った。



▲ 十郷橋

昭和28(1953)年水害で流失した十郷用水の橋の架け替え工事にあたり、ポストテンション方式のPC橋を初めて採用。

九頭竜橋を今度は車で渡っていく。新幹線は来るかしら。偶然を願いながら、軌道と同じ高さまで坂を上がる時間がとっても楽しい。残念ながら並走はできなかったけれど、毎日この道路を通る人なら機会があるだろう。うらやましい！
陽も傾いてきたけれど、宿をとったあわら温泉に向かう途中、坂井市の丸岡駅前の通りにある日本初のポ

ストテンション方式のPC道路橋、十郷橋に立ち寄る。たった8mのこの橋の完成をもって、日本中でPC橋が採用されていく。笑いながら渡っていく部活終わりの高校生に、君たちすごい歴史の上を歩いているよ…と心の中で語りかける。だけど町にとけこみ、そつと暮らしを支えるこの感じが、橋の長老は嬉しいのかもしれない。

朝の目覚めにアツアツ足湯！ 勢いのまま東尋坊へ

「熱いやろ〜」。源泉かけ流しの足湯に浸かれる「芦湯」で、なかなか足を湯に突っ込めずにいた私におばさまが笑いながら声をかけてくれた。あわら温泉の源泉は約75℃あり、加水していても湯を張りたての朝イチは熱めだ。冬ならそれも気持ちええよ、またおいで。柔らかな誘いと温泉効果でぼかぼかだ。今日はまず温泉街から西に15分ほど走って、海へ行こう。

「刑事さん…だって、仕方なかったんです！」曇り空と波しぶきを背景に、罪を告白する日本海の断崖絶壁。そんな東尋坊のイメージとは裏腹に、



▲ 芦湯

希少な福井の笏谷石(しゃくだにいし)を使った足湯。明かり取りのステンドグラスや夜のライトアップも幻想的。



▲ 東尋坊

国の名勝・天然記念物。約1300〜1200万年前に地表付近へ噴き出した溶岩が固まり、五角形や六角形の柱状の岩に。その後地殻変動や波の浸食で今の絶壁が形成された。

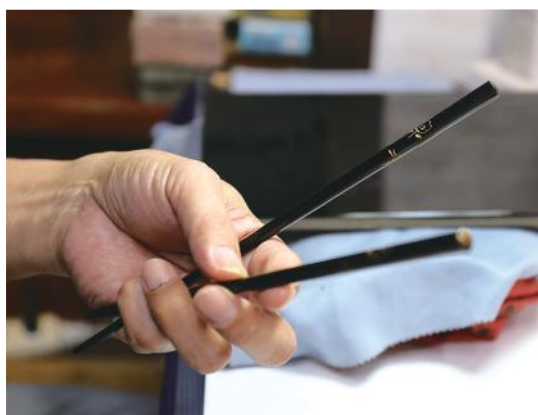
快晴に恵まれた夏の日本海は爽やかに青く、マグマが地表に向かう過程で冷え固まった柱状節理の絶壁は地球のパワーを強く感じさせ、お腹の底から力が湧いてくる絶景だった。柱状節理がこれほど大きく露出している場所は珍しく、世界三大絶勝にも数えられる福井の宝だ。

東尋坊から国道8号を北上して石川県に入ると、白く輝く斜材ケーブルが張られた加賀細坪橋りょうが見えてきた。国道をまたぐ155mの支間は、鉄道橋として国内最大だそうだ。主塔と斜材ケーブル、ギザギザしたアンカー部分が組み合わさると、まるで鳥のよう。ナスカの地上絵を立ち上げたこんな感じかしら？ 新幹線では一瞬で過ぎてしまったデザインを、地上から堪能した。

能登に心を寄せたくて 輪島塗のマイ箸作り

今回工芸めぐりがしたいと思ったきっかけのひとつは、元日の地震だった。現地で直接支援するのは難しいけれど、長い復興の道のりに、できることはないのかしら。何か端緒をつかみたくて、加賀温泉駅から車で20分ほどの体験施設「加賀伝統工芸村 ゆのくにの森」を訪れた。

「輪島塗の館」では職人さんが、輪島塗の技法「沈金」を指導してくださった。漆を彫り金をまとうせるこの技は、大陸から伝来し能登に根付いたものなのだそう。「体験の中で一番難しいよ」なんてプレッシャーをかけられながら、浅くひつかくように絵を彫ってみる…難しい！失敗かな、と肩を落としていると



▲ 加賀伝統工芸村 ゆのくにの森

輪島塗のほか九谷焼、加賀友禅、山中漆器など石川・福井エリアの伝統工芸50種以上の制作体験が、予約不要でできる。



▼ 加賀細坪橋りょう

国道8号をまたぐ橋長339mのエクストラドーゾド橋。

「大丈夫、金を入れたらグツと良くなりますから」と職人さんの指先が箸の表面をさつと撫で、金粉を刷く。するとあら！私、沈金の才能があるかも？と二気にテンションが上がる出来栄に、「この瞬間がいいんです」と、少し気難しそうに見えた職人さんが、茶目つ気たっぷりに笑った。

仕上げ磨きをしながら、輪島の現状を話してくださった。輪島塗は細かく分かれた各工程を分業で作っていて、住居兼工房を構える人が多いこと。高齢化も進む中での地震で、工房の再建は厳しいと感じて辞める人も増えるだろうこと。職人さんの師匠も廃業すると話していることなどを、淡々と淋しげに語られた。

ほんの30分の体験だったけれど、輪島塗の制作過程の面白さの一端に触れて、どうか失われてほしくないという気持ちが強くなる。知ることには応援の一步目だ。それに、まだ復旧しきっていない道路が繋がれば、状況は前に進む。PC橋はきつと、その大きな力になれるはずだ。

色鮮やかな九谷焼で カニごはんを堪能

北陸に来て、カニを食べずに帰るなんてありえない。加賀温泉郷のひとつ、山代温泉街まで国道11号を少し戻って



▲ 割烹加賀
山代温泉で三代続く割烹。地元の食材のほか、店主自ら育てる有機野菜を使い、各種たれやソースは全て自家製にこだわる。

旅のラストグルメといこう。温泉街にある「割烹 加賀」で新・ご当地グルメとして推されている「加賀カニごはん」だ。熱した石のどんぶりでご飯や温泉卵、雌のズワイガニである香箱ガニを混ぜる。ほんのり香ばしいカニの風味をたっぷりまとったごはん、最高。最後はカニ出汁をかけてみる。おかずが盛られた小さな九谷焼のうつわは、黄色に赤に橙にと「九谷五彩」と呼ばれる鮮やかな絵付けが食欲をそそる。九谷焼の窯元もあちらこちら覗いてみたかったけれど、帰りの新幹線の時間が迫っている。

新幹線PC橋の見納めは 手取川橋りょうで

再び国道8号に戻り、最後に立ち寄るのは小松駅から北上した先に架

かる手取川橋りょうだ。石川県最大の川の両岸には水田が広がり、視界が開けて気持ちいい！

金沢駅のシンボル、鼓門が旅のゴールだ。加賀百万石の城下町は今も、華やいだ雰囲気満ちている。それは工芸品の消費地である京に近く、海から大陸の文化が行き交いやすい土地だったことも大きい。新幹線の延伸で、また活気づいていくだろう。寄り道の収穫も大きくて、沿線の知られざる魅力をたくさん発見できた旅だった。



▼ 金沢駅 鼓門
平成17(2005)年、金沢駅への北陸新幹線延伸のために行われた駅周辺整備事業で「もてなしドーム」と共に完成。能で使われる鼓がモチーフ。



▼ 手取川橋りょう
手取川に架かる、延伸区間最長の全長558mのPC 3径間+PC4径間連続ラーメン箱桁橋。

手取川橋りょう (p.7)



十郷橋 (p.5)



加賀細坪橋りょう (p.6)



九頭竜川橋りょう／新九頭竜橋 (p.1)



福井県立恐竜博物館 (p.5)



浅水川橋りょう (p.4)



勝山恐竜橋 (p.5)



東尋坊 (p.6)

九頭竜川

芦湯 (p.6)

芦原温泉

旧北陸線山中ロックシェッド (p.3)



越前和紙の里 (p.4)

越前たけふ

今庄宿 (p.3)

敦賀湾

敦賀鉄道資料館 (p.2)

若狭湾

氣比神社 (p.2)

敦賀

舞鶴若狭自動車道

北陸新幹線

全日本選手権

北陸 新幹線

行こっさ！ 工芸と
恐竜、鉄道の国

旅MAP